

障がい者棟

事例発表会を開催

二日市徳洲会病院が会場

徳洲会グループは二日市徳洲会病院(福岡県)で、障がい者棟事例発表会を開催した。障がい者病棟をもつグループ病院間で事例を共有し、それぞれの現場で問題解決の参考としたり、看護の質の向上につなげたりするのが狙い。初の開催。障がい者病棟をもつ同院、東大阪徳洲会病院、宇和島徳洲会病院(愛媛県)の3病院から8人が発表を行い、スタッフを含め34人が参加。真剣なまなざしで聴講し研鑽を積んだ。



徳洲会グループ内外から34人が参加し盛況

センターの今井尚志センター長や福岡徳洲会病院の倉掛真理子・看護部長、山形徳洲会病院の井澤照美・看護部長らも駆け付けた。また、徳洲会グループ外では福岡市内の病院や佐賀県内のリハビリテーション関係の大学から参加があった。二日市病院の山下順子・看護部長が総合司会を務めた。

会場には3病院の職員に加え、徳洲会ALS(筋萎縮性側索硬化症)ケアセンターの今井尚志センター長や福岡徳洲会病院の倉掛真理子・看護部長、山形徳洲会病院の井澤照美・看護部長らも駆け付けた。また、徳洲会グループ外では福岡市内の病院や佐賀県内のリハビリテーション関係の大学から参加があった。二日市病院の山下順子・看護部長が総合司会を務めた。

沖永良部徳洲会病院

介護関係者に呼吸指導

第3回訪問リハ研修会

沖永良部徳洲会病院(鹿児島県)は介護関係者らを対象とした第3回訪問リハビリテーション研修会を開催した。テーマは、前回のアンケート結果をふまえた「呼吸指導」。沖永良部島のケアマネジャーや訪問看護師など26人が参集、訪問リハビリについて理解を深めた。

まず尾熊泰人・理学療法士(PT)が呼吸の生理学・運動学的な講義を行い、その後、現場で使用できる呼吸指導法をわかりやすく指導した。続く症例報告では、伊地知正悟・作業療法士が訪問リハビリでのターミナルケアの実例を、高山里沙PTは進行性疾患に対し環境調整を行うことで屋内外の移動能力を維持できた例を、溝口千晶・言語聴覚士は2年間経口摂取できていなかった利用者さんが嚥下訓練を通じ、わずかながら経口摂取可能となった例を、それぞれ報告した。



まず座学で呼吸の仕組みや指導法を学ぶ

幅広いケア内容に参加者からは「訪問リハビリの対象者が広がりました」との声。実際に、同院が同研修会を行って以降、訪問リハビリ件数は着実に増加、2015年は14年に比べ約1.7倍となっている。内山将哉・リハビリ科主任は「さまざまな視点から介入した訪問リハビリの実例を伝えることで、より多くの利用者さんに適切にリハビリをご利用いただけてと考えています」と、今後も同研修会を継続する方針。「島の介護サービスの向上に貢献していきたい」と意欲を見せている。次回は3月開催の予定。

乳がん治療で議論

東京 徳洲会病院 佐藤センター長参加

健康女性

東京西徳洲会病院の佐藤一彦・乳腺腫瘍センター長は、都内で行われたイベント「いのちのパートナー」に出席した。同イベントは情報交換や学習会をとおして広く女性の健康・医療などを考える団体「NPO法人ブーゲンビリア(内田絵子理事長)」らが主催。「乳がんホルモン療法」の服薬アドヒアランスについて考える「パートII」をメインテーマに、一般の方約150人が参加した。会には3部構成で、佐藤

センター長は第1部と第3部に登壇。第1部では「乳がん治療の最新トピックス」と題して講演。ホルモン療法や多剤化学療法に関するデータを交えながら、乳房温存治療の最新トピックスとして小線源による加速乳房部分照射療法を紹介した。第3部ではパネリストとして登壇。内田理事長の司会の下、壇上で中村清吾・日本乳癌学会理事、長沼昭和・山内英子・聖路加国際病院乳癌外科部長、本田麻由美・読売新聞東

成研修(第3号研修)を受講。2週間の短期独居生活を送ることができた。同院の医療ソーシャルワーカー(MSW)の橋本和子主任は「独居ALS患者の療養支援」遠隔地から転入したNPPV装着事例をとおして」を発表。女性ALS患者さんは、妹が住む大阪府での独居生活を希望。徳洲会ALSケアセンターの医師とMSWが患者宅を訪問し病状や問題点を把握、大阪に移る前から意思伝達装置を用いた訓練を開始。

同院に入院後、看護師がコミュニケーションに困難を感じることはなかった。「徐々に支援の輪が広がり、退院期間も延長してきています」と報告した。宇和島病院の曾我本若菜MSWは「意思伝達装置の申請をとおしてALS患者の自律を育んだ一症例」と題し発表。愛媛県では退院見込みのない患者さんが補装具購入の公費負担を申請しても受理されない現状があった。しかし同院スタッフの支援を受け患者さん自身が行政に繰り返し申請した結果、意思伝達装置購入への公費支給が決定した。同院の武石智恵・看護師長は「退院プロジェクトチームの取り組み」自動吸引システムについて「」をテーマに発表。武

「信頼関係を築きながら進めていくスタンス」と回答。「患者さんが混乱が広がり、退院期間も延長してきています」と報告した。宇和島病院の曾我本若菜MSWは「意思伝達装置の申請をとおしてALS患者の自律を育んだ一症例」と題し発表。愛媛県では退院見込みのない患者さんが補装具購入の公費負担を申請しても受理されない現状があった。しかし同院スタッフの支援を受け患者さん自身が行政に繰り返し申請した結果、意思伝達装置購入への公費支給が決定した。同院の武石智恵・看護師長は「退院プロジェクトチームの取り組み」自動吸引システムについて「」をテーマに発表。武

「信頼関係を築きながら進めていくスタンス」と回答。「患者さんが混乱が広がり、退院期間も延長してきています」と報告した。宇和島病院の曾我本若菜MSWは「意思伝達装置の申請をとおしてALS患者の自律を育んだ一症例」と題し発表。愛媛県では退院見込みのない患者さんが補装具購入の公費負担を申請しても受理されない現状があった。しかし同院スタッフの支援を受け患者さん自身が行政に繰り返し申請した結果、意思伝達装置購入への公費支給が決定した。同院の武石智恵・看護師長は「退院プロジェクトチームの取り組み」自動吸引システムについて「」をテーマに発表。武

屋外ではアニマルセラピーの紹介も



屋外ではアニマルセラピーの紹介も



シンポジウムで識者らと意見を交わす佐藤センター長(右から2人目)



各病院の現場の取り組みを紹介